

2007 年公民科倫理 前期中間考查 (3 年 1,2,3,4 組) 正解と解説

大問	問題番号	正解	正答率	配点	大問	問題番号	正解	正答率	配点
1	1	1	66	2	3	26	1	29	2
	2	1	24	2		27	3	64	2
	3	4	22	2		28	1	52	2
	4	3	40	2	4	29	1	59	2
	5	3	61	2		30	3	91	2
	6	1	52	2		31	1	43	2
	7	2	55	2		32	4	77	2
	8	3	48	2		33	3	43	2
	9	5	44	2		34	2	75	2
	10	2	54	2		35	4	22	2
2	11	4	83	2		36	1	51	2
	12	2	56	2		37	1	66	2
	13	1	40	2		38	1	48	2
	14	4	63	2	39	2	25	2	
	15	3	40	2	40	4	50	2	
	16	1	74	2	41	4	38	2	
	17	3	91	2	42	2	25	2	
	18	4	85	2	43	2	21	2	
	19	4	61	2	44	2	60	2	
	20	4	41	2	45	4	47	2	
3	21	4	67	2	46	1	52	2	
	22	3	83	2	47	1	41	2	
	23	4	48	2	48	1	22	2	
	24	4	40	2	49	4	66	2	
	25	4	24	2	50	3	56	2	

2007 年前期中間 倫理 得点分布

2006 年 1 学期中間 倫理 得点分布

平均	点数	頻度	累積
52.2 点	95~100	0	0
	90~94	1	1
最高点	85~89	3	4
94 点	80~84	4	8
	75~79	5	13
標準偏差	70~74	5	18
14.15	65~69	15	33
	60~64	24	57
	55~59	11	68
	50~54	31	99
	45~49	14	113
	40~44	24	137
	35~39	21	158
	30~34	13	171
	0~29	3	174

平均	点数	頻度	累積
64.0 点	95~100	0	0
	90~94	3	3
最高点	85~89	5	8
94 点	80~84	18	26
	75~79	5	15
標準偏差	70~74	24	65
12.96	65~69	17	82
	60~64	36	118
	55~59	13	131
	50~54	22	153
	45~49	12	165
	40~44	8	173
	35~39	2	175
	30~34	2	177
	0~29	1	178

2007 年片岡担当倫理 前期中間考査 解 説

第 1 問

[1] 正解 1 66%

デルフォイのアポロン神殿といえば、「ソクラテスに勝る知者はいない」という神託と「汝自身を知れ」という標語で有名ですね。20%がのアテネを選んでいましたが、間違えた人は資料集 36 ページをしっかりと読み返しておきましょう。

[2] 正解 1 24%

この問題の出来の悪さが、皆さんの勉強不足をあらわしています。サイコロ転がしたほうが正解確率が高かったかな？ 授業プリントの 1 ページ目にしっかり書かれている人名を答えられないということは、この学年の皆さんの学習に対する姿勢の甘さを感じざるを得ません。2004 年のセンター試験にはカッシーラーによる人間の定義を問う問題が出題されています。のシュブランガーはパーソナリティの類型論。のベルクソンは人間を【 】と定義し、ブルクハルトはルネサンス期の理想の人間像を【 】と表現しました。穴埋めはこの後も続きます。自分でやっておきましょう。

[3] 正解 4 22%

「万学の祖」といわれたアリストテレスの残した講義ノートはジャンルが多岐にわたっています。人間(アントロポス)を「ゾーオン・ポリティコン」(ポリス的動物)と定義した著作は『政治学』です。これもプリント 1 ページと 17 ページに載っています。あとは、選択肢の中から政治学的な記述を選ぶだけです。は倫理学的内容で、『ニコマコス倫理学』の言葉です。は有名な悲劇の定義の『詩学』、はプリントに載せたとおり『形而上学』ですね。の国制についての記述もプリントの 17 ページにはしっかりと「『政治学』より」と示してあります。

[4] 正解 3 40%

「同じ種の仲間で殺し合いをするのは人間だけである」という言葉を残したのはコンラート・ローレンツという動物学者です。彼は「刷り込み(インプリンティング)」という概念を提唱しますが、聞いたことがないかな？ それは、生まれたばかりの雛鳥は最初に見た動く物を母親だと刷り込まれてしまうというあれです。以外は資料集 10,11 ページに掲載されているものです。資料集に載ってはいないのですが、「哲学をバカにすること、それが真に哲学するということだ」という言葉もパスカルの著作『()』の中の有名なフレーズです。

[5] 正解 3 61%

センター試験の過去問からの出題です。この問題は読解力と思考力を見る問題です。ホイジンガは遊びを、本来楽しくて自由に利益を求めないものであるとしています。ス

ポーツを「楽しむ」人数が増えたところでその質は変わらないでしょうが、商業主義は利益の優先を、ナショナリズムは国益の優先を、技術の専門化はや勝利主義は「遊び」が優劣を競う競争になってしまいますね。

[6] 正解 1 52%

これも基本的なキーワード問題です。ここまでシンプルな問題はセンター試験ではあまり出てきませんね。もう少しひねって文章の選択にするのが定番です。ここでは、レヴィンが提唱したのが「マージナルマン」の概念であり、「欲求階層説」はマズローの概念であるということを知っていれば正答できる易問です。

[7] 正解 2 55%

センター過去問の中の良問です。防衛機制は欲求不満の原因を取り除くのではなく、無意識働きによってごまかすわけです。「昇華」の使い方が間違っています。性的欲求を社会的価値あるものに向けるのが昇華です。母の愛情を独り占めしたいと思って父を邪魔者と思うのが「エディプスコンプレックス」です。

[8] 正解 3 48%

これもまた前回のセンター試験の過去問です。フロイトとユングの無意識に対するとらえ方の違いは、フロイトが個人的であり、ユングが集合的(普遍的)であることです。だけが個人的な経験にもとづいたものではないの分かるかな？ 時間と空間を超えて、誰もが共通してもつ無意識を主張したのがユングです。彼はテレパシーなどもシンクロニシティ(共時性)としてその集合的無意識の観点から説明しています。UFOの研究もしているユングがオカルト的だといわれるところですね。

[9] 正解 5 44%

[10] 正解 2 54%

防衛機制の具体例を選べるかという定番問題です。は「同一視」。理想の他者と自分を同一視することで欲求不満を解消しようとする。が「投射」です。自分の認めたくない欲望や感情を他者に映し出すのが投射(プロジョクション=投影)です。リビドーを社会的な価値あることに振り返るといって「昇華」の典型です。はイソップ物語のキツネと同じ心理ですね。手に入らなかったブドウは酸っぱいという「合理化」です。これを抑圧と答えた人が 30%いましたが、抑圧は無意識の力で忘れ去ってしまうことです。がそれにあたります。人は思い出したくないことを忘れるようにできているということです。これは忘れるなよ！ 劣等感を持つ者の虚勢は「反動形成」の典型です。

第 2 問

[11] 正解 4 83%

ちょっと難解な文を出してみました。「ロゴス中心主義批判」はポストモダン系思想家ジャック・デリダの概念です。これは、プラトン以降の哲学の在り方を批判した言葉

なのですが、この文の著者の中村雄二郎氏はそこで「パトス」的な哲学の在り方を強調しました。もともと中村氏はパスカルの研究者だったのですが、80年代はフランス現代思想の紹介者として売っていました。文の意味は難しくとも、ロゴス＝言葉、論理、理性がわかれば解ける問題でしたね。

[12] 正解 2 56%

選択肢の中に正解に結びつくキーワードが含まれています。オデュッセウスが主人公として登場するのは『オデュッセイア』です。でも、彼は『イリアス』の中でも結構活躍していますよ。「労働」というキーワードとその重要性を説くあたりで、ヘシオドスの『労働と日々』が読み取れます。これはアキレウスの暴れ回る『イリアス』。

は『オイディプス』ですが、作者は【 】です。今回の1年生の世界史の問題にも出題しましたよ。

[13] 正解 1 40%

ソフィストは相対主義や懐疑主義の立場をとりますから、「絶対的な真理を探究する」が適当ではありません。

[14] 正解 4 63%

授業の中で一言も触れていないのがソロン(ギリシアの七賢人の一人、ソロンの改革で有名)とアナクサゴラス(自然哲学者、万物の種子がアルケーと考えた。一応資料集38ページには載っている!)です。アナクシメネス(万物の根源は空気)とプロタゴラス(万物の尺度は人間)、どちらがソフィストでしょうか?というサービス問題で63%の正答率であるところが問題です。この学年の足を引っばっているのがこの問題を間違えた皆さんですぞ!

(っ`´)っ.: ゴルァ!!!!!!

[15] 正解 3 40%

文の趣旨を問う問題です。センター倫理ではおなじみのスタイルの出題形式で、一般に配点は高めです。文の内容を構造的に理解できればこの手の問題は難しくはありません。「真理への意志」というフーコーのキーワードや「ロゴス中心主義」というデリダのキーワードであらわされるのは、プラトン以来の伝統的な哲学に見られる、「真理」の正しさや「ロゴス」の論理性を無条件に受け入れるとともに求め続ける形而上学の在り方です。「真理」や「ロゴス」の特権性を批判しているのがこの文脈です。ですから、そのような単なるソフィストの相対主義の主張を繰り返しているのではなく、ヨーロッパの哲学的知の在り方を根源的(＝ラディカルに)批判しているのです。

[16] 正解 1 74%

はじめの哲学者タレスが住んでいたミレトスという植民都市は小アジアのイオニア地方にありました。その北にアイオリス人が植民したアイオリス地方、南にはドーリア人の植民したドーリア地方があります。アッティカとはアテネとその周辺を指します。

[17] 正解 3 91%

さすがに万物の根源をアルケーと答えるのは問題として易しすぎましたが、9%の生徒は不正解でした。ちなみにアレテーは徳、卓越性。ト・アペイロンは無限定なもの。アウタルケイアは自足、自己充足という意味です。授業では触れませんでした。資料集の44ページ、アリストテレスの最高善の項目に書かれています。

[18] 正解 4 85%

ピュタゴラスに関するセンターの良問です。一応「万物の根源は数である」ということを押さえれば解けるようになっているのですが、ピュタゴラス派の思想の深いところにも触れられているところがすぐれた問題ですね。ピュタゴラス派についてはたくさんエピソードがありますが、輪廻転生を信じて肉食や空豆を食べるのを禁じていたというところも面白いところです。とくに空豆は食べるだけでなく、触れることについてもタブーとされていたようで、アリストテレスによるとそれは、恥部に似ているからだとか…。

[19] 正解 4 61%

これも、ケノン(空虚)というちょっと難解なキーワードが出ていますが、atoma というギリシア語が切ることができない＝不可分割体であるということが分かれば解ける問題です。このように、センター試験の問題にはちょっと難解でも基本的なことが分かれば解ける問題がよく出題されます。

[20] 正解 4 41%

自然哲学の中でも対照的なパルメニデスとヘラクレイトスの主張を理解していれば容易な問題です。自分の持っている知識と抽象的な思考力を鍛えるのが倫理の問題なのです。きちんと勉強すれば教養も深まるし、頭も良くなる。卒業した後に後悔しないように、今のうちしっかり学んでおきましょうね。

第3問

[21] 正解 4 67%

「魂の世話」あるいは「魂への配慮」というソクラテスのキーワードだけを知っていても、このような穴埋めになってしまった場合、魂=psyche が正答であるということがピンとこないのかも知れません。ノモス=法、慣習。ドクサ=思いなし、思い込み。ピュシス=自然、本性。

[22] 正解 3 83%

さすがにソクラテスの姿を伝えたプラトンの役割については正答率が高いですね。ちなみにのアリストファネスはギリシア喜劇作者として世界史でも出てきますが、『雲』という作品の中で、ソクラテスをソフィストとして描いています。ディオゲネスは、シノペのディオゲネスならキュニク派(犬儒派)[資料集45ページ樽の中のディオゲネス]もいますが、ディオゲネス・ラエルティオスという哲学史家は『哲学者列伝』という著作を残していま

す。いずれも、大学入試レベルでは絶対に出題されません。

[23] 正解 4 48%

正解は当然のフィロソフィア = 愛知 = 哲学ですね。ソフィズム = 詭弁。ミュトス = 神話。この3つを知っていれば間違いません。のヒュプリスは傲慢という意味ですがこれは覚えておく必要はありません。4分の1くらいずつの人がとを選んでいますがこれらを入れても意味が通りませんね。

[24] 正解 4 40%

この問題はリード文をしっかりと読んでいけば難しくはありません。つまり、文中の「そして、この問答はいつも『まだそれはわからない』という無知の告白を問答者が相互に認め合うことで終わった」という部分から、ソクラテスが真理を伝授するわけでもなく、真理には到達できず、無知からも解放されないということは読み取れますし、第一この辺は授業でしっかりとお話ししているはずのところですよ。

[25] 正解 4 24%

自分の無知が暴かれることは、自分が知者であると思いきや、こんでいた人にとっては屈辱であったに違いありません。ソクラテスが本当は知っているのに知らないふりをして問いかけて、人を陥れて喜んでいる。ソクラテスの哲学の姿勢に同意しない人々はその「空とぼけ」を「ソクラテスのアイロネイア（皮肉）」だと称したわけです。ドグマは「独断」。フモールはラテン語のユーモアの語源。ドクサは「思いなし、思い込み」のことでしたね。

[26] 正解 1 29%

これは「アポリア」という初出の言葉を、文脈を元にその意味を理解できるかという読解力を問う問題です。「アポリアのうちにとどまる」という使い方がここでは参照されるべき部分です。まず、明らかにはずれるのがです。これは強者に対する弱者の「ルサンチマン（怨恨）」という言葉が入るべき所です。もこの場合は「アポリア」ではなく「ア・プリオリ（先験的 = 経験に先立つ）」という言葉が適切です。の場合は「～のうちにとどまる」と言う表現が不自然ではありませんね。と判別する際には、リード文の「アポリア」の文脈をもう少しさかのぼります。すると、最も大切な究極の根拠を、知ることが出来ないにもかかわらずそれを問い続けるという状況が示されています。問うたびにその無知を悟る繰り返し。この状況はの主体と他者との間の見る側に立つか、見られる側に立つかを争う、際限のない闘争のすがたと重なります。ということで、アポリアとは「行き詰まり」や「解決法の見えない難問」という意味になります。ちなみにの場合は「仮説（ヒポテシス）」ということばが適当でしょうか。

[27] 正解 3 64%

ソクラテスの問答法の核心を理解しているかを問う問題です。無知の自覚とは、自分が正しいと信じていた真理が、ただのドクサ（思い込み）にすぎず、知っているつもりになっていたことを自覚した状態になることです。

[28] 正解 1 52%

この問題はあまり良い問題とはいえません。資料集のソクラテスの生涯を良く読んでいたかをみる問題です。の大工を選んだ人も37%いましたが、これはイエスの仕事です。

第4問

[29] 正解 1 59%

魂は滅びないという確信は、ソクラテスの思想の中にもありました。リード文の中でいうと、「アイデアを認識するために魂・精神をできるだけ身体・感覚の影響から純化せよ」の部分との関わりから、の「不死なるもの」かの「不可視なるもの」のうちどちらが適当かを考えます。「純化」すべき魂は、単に見えないということよりも、永遠であるということの方が、重要な意味を持ちます。

[30] 正解 3 91%

この問題はさすがに正答率が高い。学ぶべき最大のものは「善のアイデア」であるということです。のカロカガティアは「善美」と訳されます。カロス（美しい）とアガトス（善い）の二つを結びつけたプラトンの価値です。のエウダイモニアはいうまでもなく「幸福」ですね。

[31] 正解 1 43%

この問題ができていくかどうか、プラトンとアリストテレスの思想の違いが理解できているかどうかに関わります。存在にはその本質があることはプラトンもアリストテレスも認めています。しかし、その存在する場所についての考えが異なります。プラトンはその場所がアイデア界であるとし、アリストテレスは一つ一つの個物（実体）の中にその本質があると考えます。たとえば、人間の本質がアイデアの世界にあるとする考えがプラトンの考えであり、一人一人の人間の中にその本質が含まれるとする考えがアリストテレスの考えです。ということで、の「個物に内在する本質」はアイデアではなく、エイドス（形相）をあらわしています。

[32] 正解 4 77%

プラトンの洞窟の比喻についてもプリントと授業の中で説明していますので、正答率は高かったですね。

[33] 正解 3 43%

プラトンが民主主義、すなわち民衆による支配を否定していたということは何度か説明しています。その他の選択肢も資料集などの記述に準拠したものです。

[34] 正解 2 75%

この問題も資料集をしっかりと読み込んでいるかどうかを問う問題です。資料集42ページに『饗宴』という対話篇についての説明があります。プラトンの愛について深く知りたい人にお勧めの本ですね。ちなみに、饗宴はシンポジオンと呼ばれ、シンポジウムの語源となっています。

[35] 正解 4 22%

これは正答率が低かったのですが、プラトンが幾何学を

重視した点や、肉体は魂の墓場(牢獄)である考えを継承した点などがピュタゴラス派の影響です。実際南イタリアでピュタゴラス派に接触したことは資料集のプラトンの生涯でも触れられています。

[36] 正解 1 51%

これも、プリントにも資料集にも掲載してあるエピソードなのですが、半分くらいの正答率でした。idein(見る)という言葉から、「みかけ」「姿」「かたち」という意味になった言葉です。テオリアという言葉も「眺める」という意味から派生した言葉なのですが、ギリシア哲学においては視覚的認識が真理認識のモデルとして考えられていたことが分かります。

第5問

[37] 正解 1 66%

アリストテレスの論理学といえば「三段論法」。これは易問ですね。帰納法も演繹法もアリストテレスの論理学の中でも言及されているものですが、この文脈では適切です。の自然法は論理学とは無縁です。

[38] 正解 1 48%

アリストテレスのエイドス(形相)とヒュレー(質料)を十分に理解しているかどうかを見る問題です。文章は教科書そのままなのですが、66%の正答率とは立派なものです。高校の倫理ではアリストテレスの形而上学が軽視されがちですが、センター試験でも出題されることがあります。

[39] 正解 2 25%

このセンター過去問も良問だと思います。この選択肢はとで迷うところですが、テオリアとは、「原理を直感的に把握する理性の働き」か「厳密な論証・推論としての理性の働き」かで悩むところなのですが、理性の働きからさかのぼって考えると「厳密な論証・推論」が正しいように思えるのですが、本来のテオリア(観想)の意味を考えると、真理を「眺める」ことによって探究するという姿から、「原理を直感的に把握する」という正解を導くことができます。表面的にではなく、深く学んだ人が正解できるという意味で良問だと思われる。を選んだ人が43%いましたが、「テオリア」側からではなく「理性」側から考えた結果であると思われる。

[40] 正解 4 50%

これも単純な知識を問う問題。みなさんの学習量のバロメーターです。のアカデメイア派を選んだ人は、プラトンとアリストテレスの区別がついていない人です。

[41] 正解 4 38%

これはちょっと難問。可能態と現実態の区別がつかどうかを、アリストテレスの『靈魂論』の文で考えてもらいました。ちなみに靈魂論は「心理学」と訳されることもあります。ここでは、質料=可能態、形相=現実態という点

を理解しているかがまず問われます。形相という目的をめざして質料が運動変化するというポイントです。さらに動物にとって魂は形相か質料かというところが問われていますが、これは人間の質料が肉体であり、形相は「魂」であるという点(資料集43ページ)を押さえてあれば解けます。

[42] 正解 2 25%

最高善は幸福(エウダイモニア)であるとする、アリストテレス倫理学の基本です。その先でアリストテレスは幸福にもいろいろあるが、テオリア(観想)的生活がもっとも幸せであると説くわけで、最高善= エピステーメ(真の知)と直結するわけではありません。ちなみに、パイディアは教育を意味し、グノーシスは知識を意味します。

[43] 正解 2 21%

意外に正答率が低くなった前回のセンター過去問です。約半分が選んでしまったは仏教の「中道」に近いイメージ、あるいは「心の平安」はヘレニズム思想的でもあります。しかし、中庸とは習性的徳をつくるバランス感覚で、知性的徳の「思慮(フロネーシス)」が命じるものです。人間が日々の生活の中から習慣づけるものという観点からが正解になります。

[44] 正解 2 60%

[ア] 節制と[ウ] 友愛が習性的徳。[イ] 思慮は知性的徳で、[エ] 放縦は悪徳であって徳ではありません。以上2つなので。

[45] 正解 4 47%

[46] 正解 1 52%

この問題も良問だと思います。利益や名誉を公正に配分する配分的正義と、不当な利益と損失を公正に調整する調整的正義について具体的な例を選びます。

[47] 正解 1 41%

アリストテレスの政治学の基本的問題です。

[48] 正解 1 22%

ストア派が理性(ロゴス)を重視し情念(パトス)を押さえようとするという点を理解しているかどうかを見る問題です。ストア派の「自然に従え」というのは「理性に従え」という意味であって、「自然な感情に従え」という意味ではありません。ちなみに は運命を受け入れることをうながすストア的見解です。

[49] 正解 4 66%

真の快樂とは何かを実践するエピクロスの思想はが適当です。はアリストテレスで、はベンサムの快樂計算。も功利主義的な見方ですね。

[50] 正解 3 56%

新プラトン主義といえば、「一者(ト・ヘン)」からの「流出」がキーワードです。ちなみに はアリストテレス。は自然哲学。はストア派の説明です。